



病魔退散・鍾馗

コロナ感染防止対策を県に要望

社民県連

社民党県連は八日、県に新型コロナウイルス感染症の感染防止対策や医療体制の確立などを要望した。

要望書では、PCR検査の拡充や入院待機ステーションと臨時医療施設の設置、外来での抗体カクテル療法の実施などを求めた。

狩野光昭代表が八日、福島市の杉妻会館で菅野俊彦保健福祉部政策監に要望書を手渡した。

(福島民報・9月8日)

福島県知事

内堀 雅雄 様

社民民主党福島県連合

代表 狩野 光昭

新型コロナウイルス感染防止対策と

医療体制等の確立について

1. 新型コロナウイルス感染防止の取り組みについて

①新型コロナウイルス感染症の無症状者及び感染経路不明者が増えている中、感染者の早期発見にむけ、無料のPCR検査を拡充すること。

②ショートステイ等の介護サービスを利用する

場合、PCR検査の陰性証明がなければ利用できない状況となっています。数万円単位で利用者の費用負担がかかり、利用控えもおおきいです。介護保険サービス利用に伴う検査費用の補助を行うこと。また、介護サービス以外においても陰性証明書の提出が要請された場合にも検査費用の補助を行うこと。

③小中学校の新学期が開始されましたが、小中学校及び放課後児童クラブも含めた児童生徒の新型コロナウイルス感染防止の取組みを一層強化すること。

④学校における児童生徒及び教職員の抗原検査キット等による検査を自宅で毎週できる体制を確立すること。

2. 新型コロナウイルス感染症対策での医療体制の確立について

①厚労省事務連絡(8月25日)「入院外患者に一時的に酸素投与等の対応を行う施設(入院待機施設)の整備について」に基づき、いわき市内で設置した「入院待機ステーション」を県内各地に設置すること。

②厚労省事務連絡(8月25日)「現下の感染症拡大を踏まえた臨時の医療施設の設置について」に基づき、福井県や神奈川県・千葉県・東京

等で設置している臨時医療施設を、県内各地において設置すること。

③「抗体カクテル療法」を入院以外の患者にも速やかに使用できる体制を確立すること。

④感染拡大状況を踏まえながら、入院病床の拡充を図ること。

⑤宿泊療養施設の増室を図ること。

⑥希望する妊婦には新型コロナウイルスの優先接種の対応をはかるとともに、新型コロナウイルスに感染した妊婦の入院調整体制を確立すること。

⑦子どもが感染した場合の、自宅療養以外での療養体制を拡充すること。

以上

新型コロナウイルス抗体カクテル療法

福島県全域で投与可能に 県が体制整備

新型コロナウイルス患者の重症化を防ぐとされる新しい治療方法「抗体カクテル療法」について、県は県全域の医療機関で利用できる体制を整えたと15日、発表した。治療に用いる抗体医薬品の継続的な確保に道筋が付き、新型コロナウイルスの入院患者を受け入れている県内42医療機関のうち、約95%に当たる40医療機関で投与が可能になった。軽症や中等症の患者の症状悪化を抑制して回復を早め、重症用病床の逼迫(ひっばく)防止にもつなげる。

(福島民報・9月16日)

【註】

抗体カクテル療法とは、1回30分程度の点滴投与・終了後1時間程度の経過観察を行う。

【寄稿】

「離れられないもの」 ニュースを読んでより

今回もメールと「ニュース」を、ありがとうございました。「おかえりモネ」での会話、真実を衝いていると思えました。

【註】「ニュース」の送信メールの中で、NHK朝ドラ「おかえりモネ」の災害を題材に触れ、モネたちの気象予報グループの中で「災害が続くなら、他の地区にうつつたら」という会話が生まれる。しかし、「移りたくとも移れない。それでは生活が成り立たないし、この地は私の人生であり、そのことを捨てられない」という『離れられない』という会話にたどり着くあらずじにふれる】。

(おかえりモネ第14週の番組より)

1995年の阪神大震災では、瓦礫も片づけられず、その前でテントを張って暮らす人が多くいました。そのニュースを見た全国の自治体が「疎開」を呼び掛けましたが、手を挙げる人はほとんどいませんでした。

被災者に話を聞くと、「たとえ瓦礫になっても、ここが我が家で、家具も思い出の品々もたくさんある。それを見捨てることなんて、できない」と答えが返ってきました。第3者には、使えなくなった「ゴミ」のようでも、被災者にとっては「暮らし」のすべてなのだ気づきました。

2011年の東日本大震災でも、同じようなことがありました。「あんな危ない場所から避難して、もっと高台に映るべきだ」という人が大勢いま

した。でも、どんなに危なくても、そこは祖父たちから引き継いだ「ふるさと」であり、自分たちのすべてという人がほとんどでした。土地に根ざした植物を引き抜いて、よそに移し替えれば安全に育つ、といった簡単なものではない、と思えました。ふるさとに根を張った人生には、その毛根の一つ一つに土地の栄養分がしみわたり、そこから生きる力を与えてきたはずです。これも、都会であちこちに移り住む人には想像が及ばないことなのではないでしょうか。

コロナのデルタ株の感染拡大がとまらず、医療機関に行けずに亡くなる人が出ています。報道されているのは氷山の一角で、既往症のある人やお年寄りの中には、コロナであることも確認されずになくなっていく人も出ているのではないかと危惧します。

問題はワクチンの遅れと、検査・医療体制が限界に達していることです。それは昨年春には、すでにわかつていたことで、その時に突きつけられた課題に、少しも真剣に取り組もうとしないまま、ケケが、回ってきたのだと思います。五輪やパラをめぐる議論は、スポーツを政治化しているだけで、五輪・パラを強行しても中止しても、今の感染拡大は避けられなかったと思います。

おっしゃるように、保健所の機能はすでにマヒしています。自宅療養をせざるを得ないのなら、医師が経過を観察し、重症化する兆候があったら、ただちに「野戦病院」や「酸素ステーション」に送って、手厚く見守る態勢が必須でしょう。その連携

ができていないばかりか、患者を医療につなぐべき保健所、救急医療体制は、破綻寸前です。菅政権は、「Go to キャンペーン」や五輪・パラといった景気浮揚や過去の幻想にしがみつき、やるべきことを少しもしてこなかった。

今回の横浜市長選の結果は、受け皿さえあれば、選挙に風が吹くことを教えてくれました。密閉した圧力釜のように、ふつうの人々の不満や怒り、痛苦は列島に充満しています。それは、地方の自民党支持者にも感じられているに違いありません。

民主党が政権をとった時にも、今の小選挙区制、比例代表制の仕組みが大きな風になったと思います。もちろん、今の選挙制度には大きな欠陥がありますが、とりあえずは、どうやって受け皿をつくるのか、そのことに注力するべきではないでしょうか。

今回も、みなさんの感想やご報告が、とても身に沁みました。読者参加型になって、「ニュース」はより身近になり、多彩な声が反映される媒体になつていると思えます。



(註)「ニュース」の編集に「一寸ひとこと」、あるいは「ニュース読んで」のコーナーを設け、皆さんから投稿の参加をいただいています。匿名による掲載をいたしました。今般、そのお一人の投稿を「本人のご了解を頂き、【寄稿】として掲載をいたしました。」

(事務局)

【一寸ひとこと・気づいたこと、感じたこと】

三春町・佐久間寛さんの逝去を知る

佐久間寛さんの訃報は、東京に在住をしておられる娘さんからのメールを頂き知りました。

以下、その受信文を紹介いたします。

「父が自宅の車庫で、車の運転席を開けたままの状態です。席に倒れていたのを近くに住む叔父たちが見つけました。大動脈解離、即死というのが検視の結果の見立てであります。また父は、去る3月8日、妻を見送り一人暮らしをしていました。

そこで父を支えるために、私は隔週、ときには毎週東京から通っていました。そして心配をしていたのが自動車の運転であり、その父から8月7日、電話があり「来年1月の更新案内がきたけれど、更新しないと決めたぞ」とのこと。買い物に出かけるつもりだったのか、最後まで自動車を運転し事故も起こさず、人を傷つけることもなく、自分で卒業を決め母のところに向かったかと思うと、一人娘として、ただただ、ホッととした一言です。

今後、東京の娘さんには引き続きOB・Gニューズを送信続けたいと思います。「合掌」

OB・Gの会 事務局長 降矢通敦

田村総支部・佐久間寛さんの死を悼む

「8月10日、佐久間寛さんが亡くなりました。90歳の高齢にもかかわらず、亡くなる2週間前、三春町で開催をされた「放射能汚染水海洋放棄説明会」にも、娘さんと参加し、熱心に耳を傾けるなど、現役党員として、党会議は必ず参加をし、

党運動にも積極的に関わってきました。また、1986年のチェルノブイリ原発事故以降、自宅の裏庭に線量計を設置し、毎日放射線量を記録し、データ化する地道とりにくみを行ってきた。

福島原発事故の4日目、三春町に飛来をした高濃度の放射能(ブルーム)を測定。三春町へ異常事態を報告するとともに、放射能から子どもたちを守るため、安定ヨウ素剤の配布と服用を町に働きつけ、全国唯一、三春町だけが実施した」。

(社民党田村総支部報告より・抜粋)

リニア新幹線・汚染水海洋放出を考える

「月刊社民8月号」、「巨大プロジェクト リニア中央新幹線の不誠実な真実と破綻」の記事を読みました。東京一極集中を是正する目的で整備された高速鉄道網、逆に東京集中化を一層促進する結果に。数々の「不都合な真実」が明らかになった「リニア新幹線」より、私は隣駅まで楽に降りることができる在来線(を整備)してほしい。高齢化が進み運転免許返納の人々が頼りにしているのは「アマンダ交通・公共交通」だ。衆院選も、ようやく東北ブロック比例公認候補がまきました。今までは(行ってもだめと)「色分け」してしまい、声をかけていなかった人との面談もしています。「汚染水海洋放出反対(JAも森林組合も漁連も反対)」の1点で訴えました。相手からも『あなたが「社民党支持」と初めて知った、分かった」と言われ少々複雑、少々うれしくなりました。

(喜多方・SY)

抗体カクテル療法・仙台の宿泊療養施設で開始

(河北新報・9月6日)

宮城県は6日、新型コロナウイルス感染症の重症化を防ぐ効果が期待される「抗体カクテル療法」を行う拠点を仙台市中心部の宿泊療養施設に設け、運用を始めた。重症者を減らし、限りある病床を効率的に活用するのが狙い。運用開始を前に、抗体カクテル療法の手順を確認する看護師ら「県抗体カクテル療法センター」は、宿泊療養施設のアパホテル仙台駅北(宮城野区)の2階に設置した。医師2人、看護師3人、薬剤師1人が従事。8台のベッドを置き、1日2回転、最大16人を治療できる。初日の治療対象は6人だった。センター長の石岡千加史東北大病院副院長は「センターに集約して治療することで、各医療機関の負担も軽減できる」と説明した。

臨時医療施設に、東京オリンピック選手村のベッドを

大阪府は1000床規模の臨時医療施設を、「インテックス大阪」に設置する予定。府はこれまでベッドなど備品の確保を課題としてきたが、選手村で使用した「段ボールベッド」とマットレス、枕を無症状・軽症者用に再利用する方向で検討していることが分かった。

府は、9月中に無症状・軽症者用の病床を500床整備したうえで、10月中には中等症者向けに施設を拡充し、最終的に1000床規模の整備を目指す。

(福島民報・9月11日)

【ニュースを読んで】



■先日の横浜市長選野党支持候補が当選、やはり政策として、「コロナ」がR誘致に勝ったんですね。横浜は昔の仕事仲間が多く在住しているので懐かしいです。今後は衆院選挙がらみの自民党総裁選びで昔さんも正念場ですね。横浜のダメーシは大きいでしょう。いずれにしてもこの機会を野党がどう打つて出るか、頑張ってください。

■いつも大変お世話様になっております。ニュースを有難うございます。勉強させて頂き、市政へ生かして行きたいと思えます。有難うございました。

■福島県内も自宅待機組が増えていますね。いわき市が300人もいるとは驚きです。私はワクチン2回終えて、今年こそはお盆に帰省したかったのですが、施設の母には面会できないと言われ、諦めました。能力のない人たちが選挙で選ばれこの国をめちやくちやにしているのですから、国民は反省しなければなりません。今日からパリンピツクが始まりました。なぜ、緊急事態で医療崩壊で毎日放置された人が死んでいるのにお祭りをやるのか、怒りで悶々としている毎日です。でもストレス溜めないようにしなければいけませんね(笑)

■梅雨を思わせるような雨もようやく終息し、蒸し暑さがぶり返してきました。ウオーキングで木陰に休む時、風の音に秋を感じるようにもなりました。9月号いただきありがとうございます。充実した、時宜を得た内容と、「ちよっとひとこと、

気づいたこと」の面白さ?にフンフンと相槌をうつています。それにしても、菅内閣の場当たりの「コロナ対策、原爆記念式典の飛ばし読み、うつろな目、「裸の王様」もい所です。その結果としての、横浜市長選の野党系候補「山中竹春」氏の圧勝は久方ぶりの朗報です。敵失の結果であり、「ガラスの団結」といわれる野党共闘ですが、それでも一強に対するには、横浜方式を最大限生かしてゆく必要があります。そのために、それぞれが地域で最後の力?を振り絞って闘うことだと思います。共に頑張りましょう。

■首都圏ではコロナの変異株もようやく感染が頭打ちに見えます。ただ医療関係者の切実な訴えは続き、医療現場の大変な状況はまだしばらく続くようです。無為無策で現場に負担を押し付ける構図はなにも変わっていないように見えます。菅首相の突然の退陣表明で、次の衆院選に向けて、自民党は最悪の結果は回避したなと思いましたが、誰かがシナリオを書いたわけではないかもしれませんが、結果的に党として最悪を避ける行動をとる自民党のしたたかさを見る思いです。転じて、野党が追い込まれる形になっています。メディアは完全に「政局」の報道に終始していて、これまでの自民党政権のあり方を、すべて個人や派閥の問題に矮小化しています。メディアへの露出は、ほぼ自民党だけという状況になりました。政権支持率の低下は確かにコロナがきっかけだったかもしれませんが、もっと深いところで政治に対する不信が拡がっていて、その社会の気分が大きな地滑りを起

さないものかという、ささやかな期待は薄らいでしまいました。それでもメディアの政局報道だけに踊らされない、有権者の投票行動に期待するばかりです。

■夏休み、お盆などでコロナは全国で拡大をしています。福島県でも、特にいわき、郡山はどうなるのでしょうか。来月いっぱい山を越えてくれれば良いのですが。健康に注意をして選挙(秋)をがんばりましょう。

■五輪やパラ、そして総裁選と、マスコミはカレンダーのように一点集中型の報道をしています。その定見のなさにはうんざりしています。総裁選は自民党内の問題なのに、あたかもそれで首相が決まるかのような報道をして、離合集散や駆け引きを面白おかしく取り上げるのみです。この9年間の安倍→菅路線が何をもたらしたのか、この1年半のコロナ対策のどこに問題があったのかを問うことなく、世論調査が政権を決めるというエンタメ路線に終始するなら、マスコミの罪は大きいといわざるをえません。ワクチンを接種しても「ブレークスルー感染」が起きるとか、抗体も減少するということが報じられています。でもそれは、全員がワクチンを受けられる状態になったあとに始めるべき議論ではないでしょうか。十分なワクチンを供給できなかった大臣が、国民人気一番というのは、どう考えてもおかしな結果だと感じています。

